

# 浜松城跡

(第14次調査)

現地説明会資料



2015年8月22日

浜松市文化財課



## ■ 浜松城について

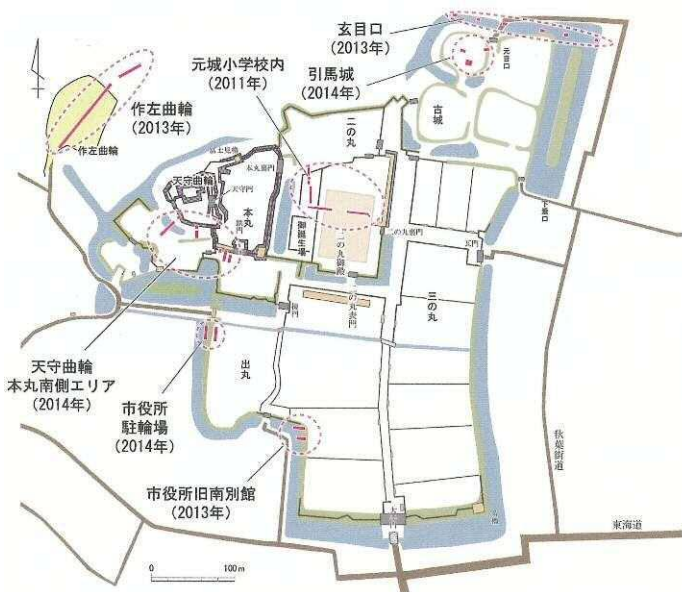
浜松城は、三方原台地の東縁にあたる段丘上を利用した平山城で、中世には引馬城と呼ばれていた。中世の引馬城の位置は「古城」と伝えられ、現在は浜松城の北東側にある東照宮にその名残を留めている。

元亀元年（1570）、徳川家康は弱体化した今川領地内に進攻し、この地に前線基地を築いた。徳川家康が在城した17年間によって、現在の浜松城の位置にまで軍事施設が拡張されたとみられる。

天正18年（1590）、豊臣秀吉が天下統一を成し遂げると、徳川家康は関東に移封され、浜松城は豊臣系の大名である堀尾吉晴が治めた。最新の築城技術をもった堀尾氏は、浜松城に石垣を築き、瓦葺きの天守閣を建築した。

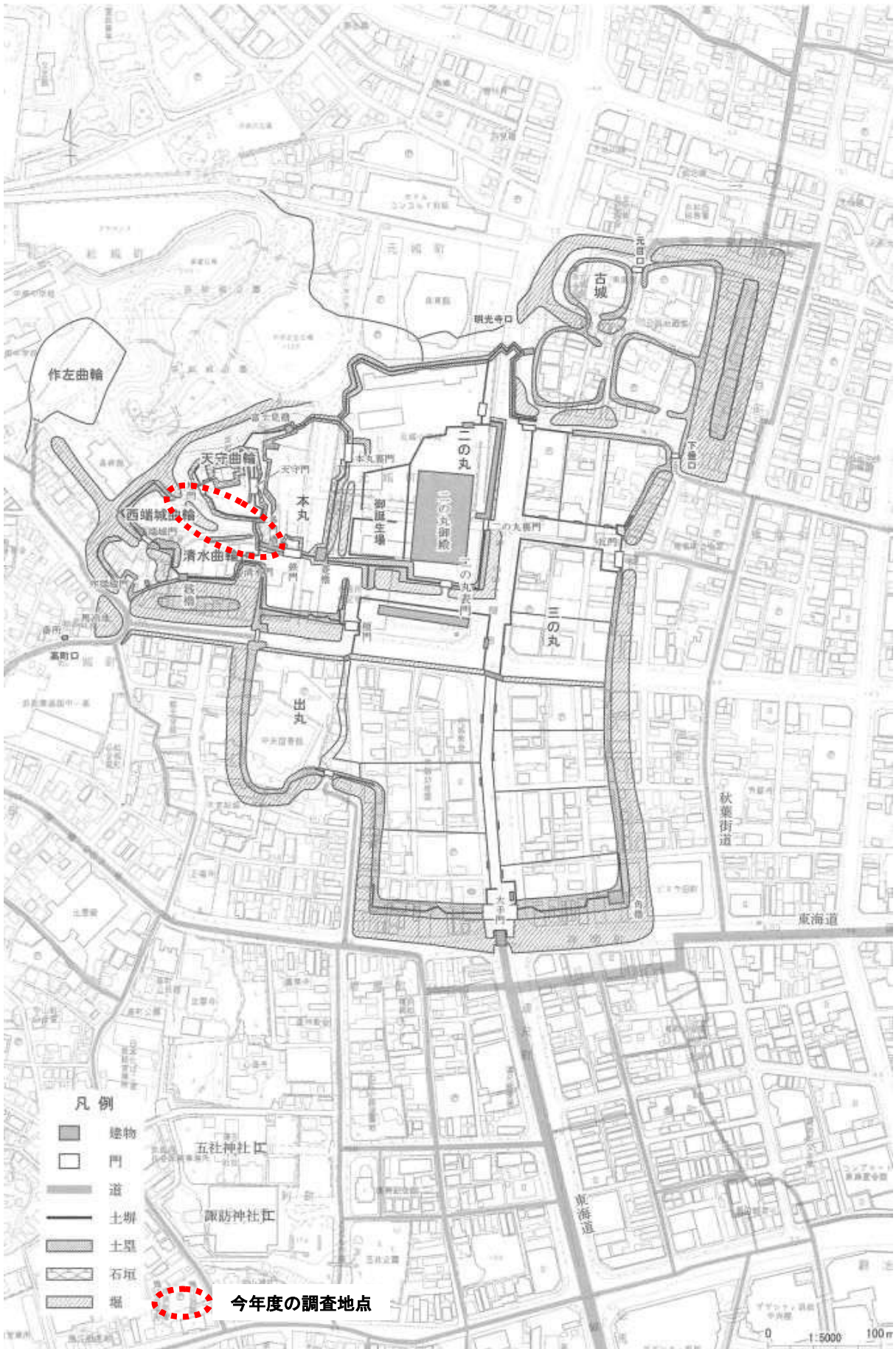
慶長5年（1600）、関ヶ原の合戦で徳川家康が勝利した後、浜松城は徳川譜代の城として豊臣色が払拭された。天守閣も17世紀には消滅している。江戸時代には、三の丸が整備され、東海道沿いの城下町も形成された。

なお、現在みられる天守閣は昭和33年（1958）に再建されたものである。



近年の発掘調査箇所

年代	地域の支配者 (城主)	できごと
15～16世紀	今川 (飯尾)	駿河今川支配下の支城として引馬城(古城)を整備
元亀元年 1570		桶狭間の戦い(1560) 徳川家康、引馬城入城
	徳川	本丸、天守曲輪付近への軍事施設拡張(詳細不明)
		三方原の戦い(1572) 長篠の戦い(1575)
天正18年 1590		徳川・武田攻防戦
	豊臣 (堀尾)	小田原の陣(徳川家康、関東へ移封)
慶長5年 1600		天守・瓦葺建物(天守門)の建設、天守曲輪石垣の構築
	徳川 (譜代)	関ヶ原の戦い 徳川家康、将軍となり、江戸幕府を開く(1603) 大阪夏の陣、豊臣氏滅ぶ(1615)
明治元年 1868		徳川譜代の城として再整備 近世城下町の形成、二の丸の拡張
		明治維新
		廃城令(1873) 二の丸、三の丸の市街地化が進行
昭和20年 1945		第二次世界大戦終結
昭和25年 1950		浜松城公園開設 天守曲輪、本丸の一部が公園整備
昭和33年 1958		復興天守(鉄筋コンクリート造)の建築
昭和34年 1959		天守曲輪、本丸の一部を浜松市史跡に指定



濱松城復元図

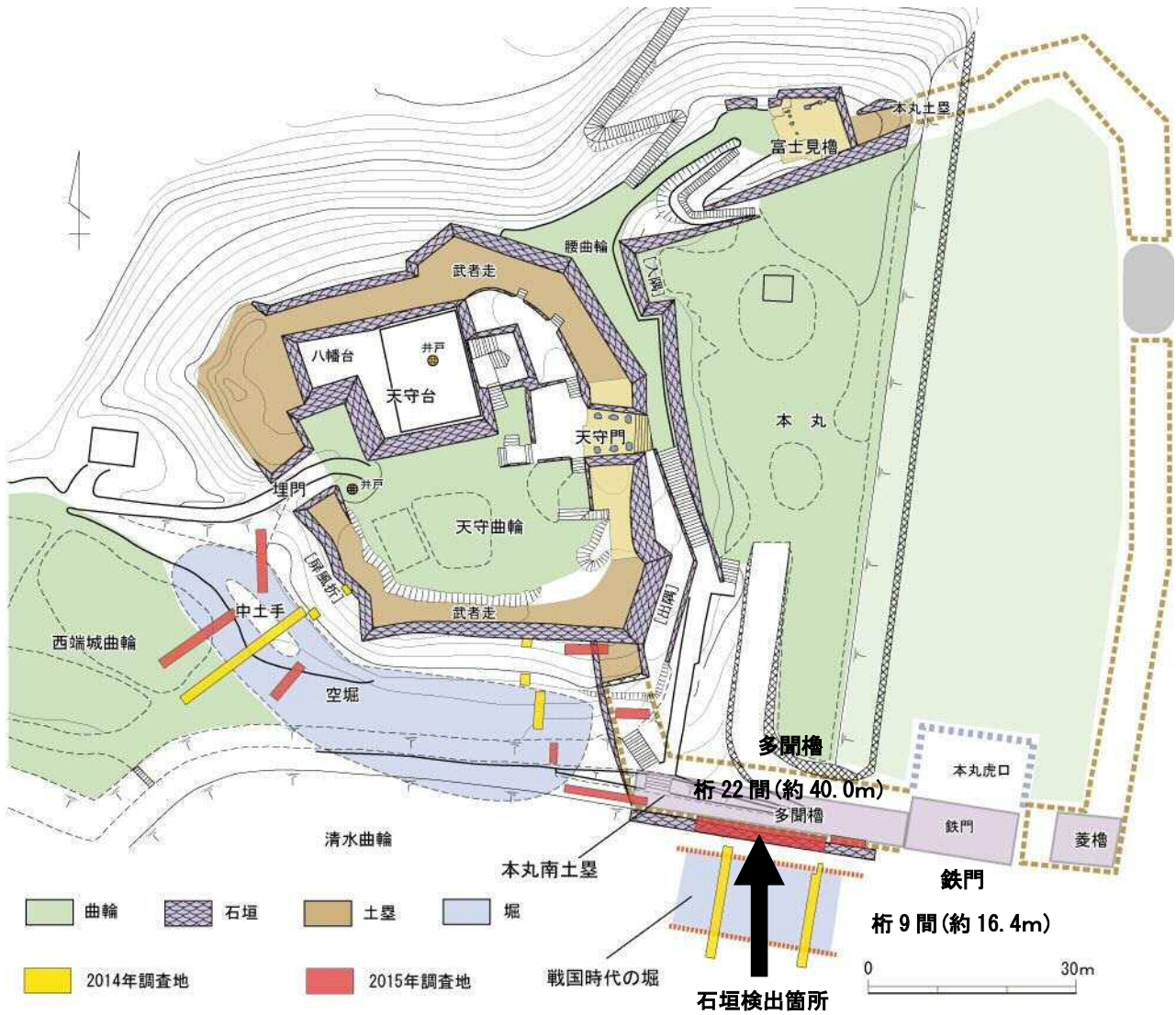


## ■ 調査成果

2014年と2015年の発掘調査によって、西端城曲輪の空堀と、本丸南土塁の石垣が確認できた。検出した石垣の全長は10.2m、高さは最も高いところで2.5mである。石垣の上部と東側は失われているが、かつては石垣の上に多聞櫓が築かれていたことが、江戸時代に描かれた絵図から確認できる。



石垣検出箇所  
天守曲輪を描いた絵図



発掘調査位置図





今回検出した石垣の全景



石垣の残存状況










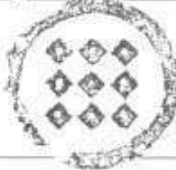








石垣内部の状況

### ■ 石垣の特徴

浜松城の石垣は野面積（のづらづみ）という技法で積まれている。この技法は、自然の石を用いたもので、浜松城の石垣は表面に比べて内部が大きくなるように石材が配置されている。石垣の内側には排水機能を高めるために拳大の円礫が詰め込まれている。また、石の角度を調整するために、小型の角礫を挟み込んでおり、自然石を巧みに用いて石垣を築き上げた、安土桃山時代の技術的特徴がよく確認できる。



西暦	城主	地域の支配者	関連出土品	今回の出土品		
1565	飯尾賢連・乗連・連電	今川氏	 かわらけ(灯明瓦)	 <p>すり鉢と土鍋</p>		
1570			 瀬戸美濃天目茶碗			
1590	徳川家康	徳川氏	 かわらけ(灯明瓦)			
1600	(城代) 菅沼定政		 瀬戸美濃折皿			
1601	堀尾吉春・忠氏	豊臣氏	 廻廊軒丸瓦		I期	
1609	松平忠頼	徳川氏(将軍家)			II期	
1619	水野重仲					
1638	高力忠房					
1644	松平乗寿					
1678	太田資宗・資次					 太田氏結核紋軒丸瓦
1700	青山宗俊・忠雄・忠重			 青山氏無字銭紋軒丸瓦		
1702	本庄(松平)資俊・資訓			 本庄(松平)氏九目結核軒丸瓦		IV期
1729	松平信祝・信復					
1749	松平(本庄)資訓・資昌			 松平(本庄)氏九目結核軒丸瓦(縮尺1/12)		
1758	井上正経・正定・正甫			 井上氏井指紋軒丸瓦		
1800						
1817	水野忠邦・忠精		 水野氏沢瀉紋軒平瓦(縮尺1/10)	IV期		
1845		 沢瀉紋鬼瓦の破片				
1868	井上正春・正直		 井上氏井指紋軒丸瓦(縮尺1/12)			

浜松城歴代城主の変遷と出土品